

農協HP
はこちら

※ 答えは裏面に

街で見かけたら
声かけよう。

必殺仕事人の仕事人

ゆずの森を切る。

何年ぶりだろうか？ゆずの森ができたのは平成18年。当時営林署の貯木場であった土地にゆずの森を造りました。ゆずの森を構想するに当たり、「入り口の50mをどうするか」、「どうやって来た人にくつろいでもらえるのか」悩んでいました。そこで、熊本の黒川温泉を再生させた、観光力リスマの故・後藤哲也さんを訪ねることにしました。秋の黒川温泉は建物と紅葉がマッチして、とても落ち着いた空間だったことを今でも鮮明に覚えています。当時、後藤さんに教えられたことは「雑木を植えないで」。迷いが吹っ切れたことで、再度構想を練り、村にお願いして林道開設の土をゆずの森に運んでもらい、3人で造成し、手分けしてコナラ、紅葉などの雑木を植えました。雑木が大きくなる



植えました。雑木が大きくなる



しょうやさいがあるき

「しょうやさいがあるき」
「しょうやさいへ行くがよ」
村の人達との会話で聞き慣れない単語が。しょうやさい？しょうやって、庄屋？昔話でしか聞かなかった言葉が日常会話の中で当たり前のように使われている。なんでも、今役場が建っている場所。はもともと庄屋さんがおったところだそうで、馬路を治めていた庄屋さまに感謝をこめて、毎年一回お祭りをやっているんだとか。今年も村の有志が集まって庄屋祭は無事行われました。



近道なるも遠ざかい 人生楽ちん馬路村

東川にはしる、河口隧道（こうぐちすいどう）。「隧道」とはトンネルのいわゆる旧称で、大正の時代につくられ森林鉄道が走っていたトンネルです。今では「森林鉄道から日本一のゆずロード」として日本遺産にもなった関係で、この林鉄跡地も注目を浴びているわけですが、この隧道はいわゆる村道扱い、村民も近道がてら使っています。しかし、かし大正時代に造られた隧道。道幅も少なく車一台が通るので精一杯、当然すれ違いもできません。おんちゃんに聞くと「半分までいった方が勝ち」。対向からライトが光ると、先に半分地点に差し掛かっている方が優先となるのは村の中に数ある「暗黙の了解」事項。運悪く対向車が入ってきた場合は、約90mに伸びるトンネルを引き返す羽目になるかもしれません。近道となるか、余計に時間がかかるかは、運次第。楽を手にするのも楽ではない。

ゆずの森

着実にファンを増やしている「馬路寿司の素」。家庭で簡単にゆず寿司が楽しめるのが魅力です。しかしこの「馬路寿司の素」は酢の物や唐揚げの下味にも使えます。ダシや調味料にこだわった、いろんなお料理に応用できる一品です。



秘密の洞窟



春の温かいある日、ゆずの森を散歩していたら、不思議な洞窟を発見しました。さてさて、人間の目から見ると単なる穴にしか見えませんが、小さな生物にとっては秘密の洞窟かもしれませんね。ゆずの森の神様？小人？モグラ？ツチノコ？もう季節は春ですね！

そのゆずの森を救う

ゆず栽培においての天敵のひとり（一匹）、カミキリムシ。ゆずの木の根元に卵を産み、孵った幼虫が幹の中にトンネルをつくってしまい、ゆずの木を弱らせてしまいます。馬路流栽培においては、余計な農薬などを使用しないと決めておりますので、このカミキリムシに対してはすべて手作業で対抗していくしかありません。ある春の日の畑、ゆずの新植作業をする際にも、木の根元をよくよく見て、カミキリムシの幼虫を探しては退治していきます。その中で、「食べれなくはないけどなあ」と畑のおんちゃんがボツリ。最近「昆虫食」も都会では大流行しつつある、という間違った情報を信じた新人が前代未聞の一口。んん？食べてみると、「案外クリーミー」らしい、「悪くはない、悪くはない」を繰り返します。大きな道も一歩からならぬ、一口から。もしかすると将来この一口が地球を救う、かも？と、冗談もはさみつつ、今日も農協営農班が地面に這いつくばり天敵退治に汗をかいています。

フリーケキョ

春が近くなりウグイスの歌が山々に響く。姿は見えないが声ははっきり聞こえる。耳をすませて歌を聴いてみると・・・
「フリーケキョキョ」
「ヘタクソ！」
ん！まだまだ、練習中の様子。まだ聴かないで！と泣いているようにも聞こえます。



苗が届いたぞ！ おー待ちました



ゆず畑の春の作業のひとつ、苗の植え付け。配布時間を前にして「待ちよった」とたくさんのおんちゃんが競うように配布場に集まってきました。軽トラにたくさんのおんちゃんを積み込んでおんちゃん、少しこの場ではヒーローのようになり「そんなに植えるか」という歓声にも似た賛辞を浴びることになります。一方、ケンちゃんも係のみんなに「おら2本だけやが、こっそり乗せてくれ」と恥ずかしそうに伝えています。「いやいや、ありがどうね。ケンちゃん」と係のみんな。それぞれの畑の事情も話しながら、さながら社交場のような配布場となっています。農協を巣立ったゆず苗がこれからおんちゃんたちの愛情をうけて立派なゆずとなることでしょう。

編集後記

あちこちで桜の花が咲き、馬路村はすっかり春の景色です。冬の間は少し静かだった村にも活気が戻り、外へ出れば散歩中の人や畑へ行く人と会えるようになりました。「温うなってきたねえ。」ちよっと立ち話のつもりがついつい長話に。暖かい陽ざしに会話がはずむ季節となりました。

森を元気にする会社 エコアス馬路村



<http://www.ecoasu.co.jp/>

すみちゃんの86歳 バイリンガルコーナー



よく使う例としては「今日は、足の調子が悪いきみてくれんろか？（今日は、足の調子が悪いからみてくれないか）」という風に使います。

高知市から室戸方面に約51km
国道55号線を太平洋沿いに進むと安田町へ入る。
そして、左に大きい川が見えてきたら左へ曲り、安田川に沿ってくわくわく上る。
県道12号線を通る事、20km。約30分。ようやく馬路村に着きます。

こまじまい 馬路村への道



馬路村で待ちうさね！